

# 学位論文審査の要旨

学位申請者	門村 亜珠沙 【理学専攻 平成25年度生】	要 旨
論文題目	Ubiquitous Computing for Improving Daily Behaviors	本研究では、食行動と子供の食育活動に着目し、家庭内で食育を支援するユビキタスコンピューティングシステムの実現と設計手法の体系化を目指した。幼稚園での実態調査に基づき、偏食とアンバランスな摂食に着目し、これらの問題行動を、音やコンピュータゲームで楽しみながら改善するシステム EaThereMin と SensingFork を開発した。これらを、複数の子供の実際の食事の場で使用し、実証実験により有用性を確認した。
審査委員	(主査) 教授 椎尾 一郎	早期終了であることから、内規に従い、学外審査員を含めた6名の委員で審査委員会を構成した。本論文では申請者が、独創的な機構を備えた実用性の高いデバイスを開発し、その有用性を実証しており、当該分野の第一人者たる研究成果をあげたことを示している。また本論文の内容は、原著論文として学会論文誌に2件掲載されるとともに、この分野のトップカンファレンスで登壇発表し、フルペーパーが1件出版されている。このほか、多数の査読付き国内外学会で発表を行っている。また、学会論文1件は、情報処理学会特選論文賞を受賞している。これらの顕著な研究成果を踏まえて、以下の日程で学位論文審査を実施した。 第1回は平成26年12月17日に開催した。提出された論文の内容および問題点を洗い出し、第2回目以降の審査方法（申請者本人を呼び出しての審査方法）について審査委員間で合意をとった。第2回は平成26年12月24日、第3回は平成27年1月27日に開催した。いずれも学位申請者による40分程度の研究内容説明の後、各種の質疑を取り交わし、論文内容の修正や改善について学位申請者に指示を出した。その後、平成27年2月19日に、公開発表会および最終試験を実施した。最終試験では、公開審査会にて研究内容を聴講した審査委員および出席者から、研究内容全般にわたって幅広く質問された。学位申請者は全ての質問に対して的確に回答し、本論文の研究内容の完成度の高さおよび、本研究分野における見識の広さと深さを示した。以上の結果から審査委員は、最終試験を合格と判定した。第4回は平成27年2月19日、公開発表会・最終試験の後に開催した。公開発表会および最終試験の内容を踏まえて、論文内容を最終確認した。以上の結果から本審査委員会は、本論文が人間文化創成科学研究科の学位、博士（理学）Ph. D. in Computer Science の学位を受けるに相応しいと判断した。
	教授 伊藤 貴之	
	教授 小林 一郎	
	准教授 斎藤 豪	
	教授 吉田 裕亮	
	東京大学 大学院 情報学環 教授 暦本 純一	
インターネット 公表	<input type="radio"/> 学位論文の全文公表の可否（可・ <input type="radio"/> 否）  <input type="radio"/> 「否」の場合の理由 ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている  ※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について	